

テハ鑑定ヲ下シ難シ(第二項)○○ノ殺人的行爲ハ莫比服用ニ由テ來タル症候の所行ニアラズ何トナレハ慢性莫比中毒ニハ種々ノ精神障害ヲ呈スルコトアレハ急性中毒症ニアリテハ甚クシク大量ナラサルキニ僅カニ精神亢奮スルコトアレハ精神錯亂ニ至ラズ大量ナレハ却テ直チニ麻睡ノ状態ニ陥リ暴行ヲ爲シ能ハサル者ナリ

右之通鑑定候也

明治二十八年 月 日

鑑定 人

石川縣金澤病院醫員

澤田 定信 印

同

敷波重次郎 印

### ◎實扶的里亞血清療法小實驗

會員 岡田 剛吉

今世醫學界ノ一大進歩トシテ我日本國ハ勿論歐米諸國ニ於テモ等シク賞揚喧傳シ醫事ニ關スル雜誌ニシテ每號記載セサルナキハ實扶的里亞血清療法ニ關スル諸件ナリトス予カ茲ニ載スル所ノ如キハ實ニ九牛ノ一毛ノミ殊ニ事學術的ニ關セス專ラ實地的ナルノミ然レハ卑近ナル小實驗談又時トシテ無益ナラサルコトナキニ非ス依テ本誌ノ一隅ヲ汚ストセリ果又此小實驗ハ金澤病院小兒科ニ於テ醫學士小川勝陳君ノ示導ノ下ニ加藤慶三、中村顯、岡本京太郎等ノ諸君ト共ニ

セシ所ノモノ也

金澤病院ニ於テ初メテ實扶的里患者ニ血清療法ヲ施セシハ一昨明治二十八年十一月十日ニシテ爾來昨年十二月ニ至ル迄僅々拾二名ニ過キス使用セシ血清ハペーリング氏血清及北里氏血清ノ二種ニシテ重症ト診定シテ直ニ第三號ヲ注射セシアリ第二號ヲ注射セシモノアリ先ツ第一號ヲ注入シ十時間許ヲ經テ更ニ第一號若クハ第二號ヲ注入セシ者アリテ如何ナル症狀ニ迄進ミシ者ニハ第何號ニテ足レルヤ等ハ使用スベキ血清ノ貯甚タ僅少ナリシ爲メ實檢スルヲ得サリキ例令ハ第三號若クハ第一號二回或ハ三回若クハ第二號一回適當ナラント診スル者アルモ如何セン有合ノ血清ハ第一號若クハ第二號一瓶ノミナル等ノ場合少カラシナリ

注射ノ方法ハ北里及ペーリング氏ノ指示スル所ニヨリ注射ノ部位注射器等ハ無水「アルコール」及五%石炭酸水ニテ能ク洗ヒ注射器ハ大坂白井松之助ノ販賣スル十立方仙迷入ノ者部位ハ大腿ノ内面ニ於テセリ注射スルハ敢テ困難ナシト雖モプラワツツ氏ノ皮下注射器ニ比スレハ大ナル事十倍ニシテ量多キ注射液ヲ徐々ニ注入スルカ故ニ稍時間ヲ要スルニヨリ患兒轉輾反側スル憂アルヲ以テ助手(看護人)ヲシテ其注入スベキ下肢(大腿ナラハ)ヲ固定セシメサル可ラス又左手ヲ以テ注入部ノ皮膚ヲ把上シ右手ヲ以テ注入スルモ注射器大ナルヲ以テ不熟練者ハ爲シ難キコトアリ何トナレハ一手ニ注射器ヲ把持シ一手ニ吸子ヲ押入シ助手ヲシテ注入部ノ皮膚ヲ把上セシメサル可ラサレハナリスノ如キハ些事ニシテ蛇足ニ似タリト雖モ一回刺入シタル注射器ヲ拔去シ周章一人ノ御助ケヲ呼ヒ更ニ刺入スルカ如キハ唯リ術者ノ体面ニ關スルノミナラス患兒ヲシテ一層恐怖セシム

ルノ害アリトス刺入部ニハ十%沃土仿コロジユムヲ黠滴シ凝着セシメ敢テ注入液ノ爲メ膨隆シタル皮膚ヲ摩擦セサルモ暫時ニシテ吸収ス

注射後第一ニ現ハル、ハ(十二時乃至二十四時間)呼吸困難稍減シ患者安靜トナリテ安眠シ脈搏不正數ヘ難カリシ者モ正整數ヘ得ルニ至リ吸氣時鼻翼ノ運動、心窩陷沒喉頭部狹窄性雜音等漸々消失シ熱下降シ咽頭ヲ檢スルニ扁桃腺ノ腫起次第ニ減シ(二十四時ヲ經レハ大低半減ス)潮紅又褪色シテ稍暗色ヲ帶ヒ義膜ハ周邊ノ限界明瞭トナリ痂皮狀ニ恰モ粘膜面ニ置キタル者ノ如ク三十六時乃至四十八時間ニシテ脱落シ平滑ニシテ暗赤色ノ粘膜面ヲ現ハシ呼吸大低平常ノ如ク患兒遊戯シ臥床ヲ離レテ外出センコヲ希望スルニ至ル然レモ顎下水脈腺炎氣管枝炎等併發ノ爲メ義膜消失スルモ猶三十八度或ハ尙以上ノ熱數日間持續シ咳嗽ヲ發スル者多シ

右ノ如ク義膜脱落ニ先チ呼吸ノ安靜トナルニ由テ見レハ呼吸困難ハ單ニ義膜ノ爲メ喉頭狹窄スルニアラズシテ粘膜ノ腫起及ヒ實扶的里トキシシノ爲メ吸呼中樞ヲ害スルナラン歟

予等カ實驗セシ拾二名ノ患者ハ一年二ヶ月乃至四年ノモノ十一名三十二年ノ大人一名ニシテ此大人ハ血清ノ副作用ヲ發セリ則チ北里氏血清第二號ヲ注入シテ後第六日ニ注入部ノ周邊ニ第七日ニ顔面及手腕關節足關節以下ヲ除クノ他全身ニ「ウルチカリヤ」ヲ生シ二日ヲ經テ全ク消褪シ第八日ニ至リ左右膝關節及足關節痛ヲ訴ヒ下脚特ニ足趾稍潮紅浮腫狀ヲナシ「ブレンジモーネ」様ノ外看ヲ呈セシモ是亦二三日ニシテ消失シタリ

拾二名ノ患者中死亡セシハ二名ニシテ乃チ一六、六%ナリト雖モ一名ハ注入後四時間(血清充分作

用セサルナラン）ニシテ死シ一名ハ局所ノ變化義膜ナク呼吸困難著シキ者（聲門水腫？）ナリシ

參考ノ爲メ左ニ血清藥院ニテ拂下ル血清ノ種類代價及拂下手續ヲ附記ス

實扶的里亞血清

第一號

代價 六拾錢

同

第二號

同 壹圓

同

第三號

同 壹圓五拾錢

代價ハ登記印紙ヲ以テシ別ニ運送費ヲ要セス（藥劑師藥種商ハ二割引トス）

拂下請求ノ手續ハ明治二十九年七月七日官報廣告ニヨレハ左ノ書式ニ據リ直接ニ血清藥院ニ

請求スヘシ

賣下請求書

一 實扶的里血清

第一號

何個 此代金、、、

一 同

第二號

同 同

一 同

第三號

同 同

合計 何 個

此代金何圓何十錢

（此代價ハ割引ヲ受クヘキ者ニアリテハ割引代價ヲ記スヘシ）



右賣下方請求候也

●原著及實驗

府何國何郡市何町何番地  
縣何國何郡市何村何番地

明治年月日

醫師 何 誰 印  
藥劑師 何  
藥種商

血清藥院御中

血清藥院假事務所ハ東京市芝區愛宕町二丁目十三番地ナリ

◎尿石ノ實驗 (通常會所演)

會員 木村 孝藏 講

余ハ今我「クリニツク」ニ於テ、既往十三年間ニ實驗シ得タル、尿石患者ノ病歴及ヒ結石ノ性狀ヲ報道セントス、玆ニ遺憾ナルハ余カ當地ニ於テ診療セル外科患者總數ノ概ネ五萬人ニ達スルニモ係ラス、内チ尿石ノ確診ヲ得タル者ハ僅々三十人ヲ越エサルノ一事ニシテ之ヲ以テ觀レハ當金澤ノ地ハ甚タ尿石患者ニ乏シキ者ノ如シ、只疑テ措クヘキハ、彼ノ田舎僻邑ニ棲息スル住民中偶々此症ニ懼ル者アルモ徒ニ不治ノ疾病ナリト自信シ、敢テ治ヲ乞フノ念ナキ者アツテ存シ、加之縱令本病患者ニ接スルモ、明ニ之ヲ診定シ得ルノ醫家ニ乏シキ地方亦少キニアラサルヘシ、表中第十一號患者ノ如キハ正ニ不治ノ淋疾ナリト自信シ、大凡十八年間放棄シタルノ後チ、我醫學部卒業生高柳氏ノ診決ニ由リ始テ尿石ナルコトヲ悟リ、余カ許ニ來リタル者ニシテ此レカ好証例タリ、如此ナルカ故ニ當地方ニ於ケル尿石患者數ノ確カナル統計的記載ヲナサンコトハ難事ニ屬スレモ、概シテ此地方